

2020 年度公立学校教員採用選考試験 小論文 解答例

この図表から、平成 27 年から 28 年度にかけて小学校と中学校において、いじめの認知件数が増加していることが分かる。特に小学校低学年から中学年にかけての増加は著しい。これはマスコミの報道を機に、いじめに対する認識が変化したためだと思われる。また、どちらの年も、小学校中学年から高学年へと徐々に低下してきた認知件数が中一で再び増加している。小学校から中学校へと子どもたちを取り巻く環境が大きく変化したためだろう。

新聞報道などを見ても、いじめに悩み苦しむ子どもは数多くいる。いじめはどんなものであろうと重大な人権侵害であることを念頭に置き、私は教員としていじめをなくすために次の二点に重点的に取り組む。

一点目は、学級での話し合い活動の充実である。子どもたちの興味・関心に基づきテーマを決めて話し合う。その際、どんな意見であっても否定せず、認めることをルールとする。私はファシリテーターとして、子どもたちの考えがより深まるように支援する。また、学級内で起こったどんな小さな問題であっても話し合いで解決する。これらの経験の積み重ねにより、多様性を認める心と自分たちで問題を解決する力が育まれるはずである。

二点目は、地域連帯の強化である。例えば、毎朝校門で挨拶運動を行い、教員が子どもたちの模範となるような元気に挨拶することはもちろん、地域の方にも運動に参加していただき、挨拶の輪を広げていく。また、子ども 110 番の家の方と顔見知りになるようなスタンプラリーを企画したり、お祭りなどの地域の行事に子どもたちを積極的に参加させたりすることで、学校・保護者だけでなく、地域の皆で子どもたちを見守る雰囲気をつくり上げた。以上の取組を子どもたちが環境の変化に戸惑う年度初めに特に集中して行うことで、いじめの件数を減らすことができるはずだ。

学校生活において、友達や先生と遊ぶことや新たな知識を得ることは本来とても楽しいことである。これから出会う子どもたちに、いじめがなく安心して登校できる環境の中で、遊びや学びの楽しさを知ってほしい。そのために、私は努力を惜しまず全力を尽くす覚悟である。